

る」と言います。これは、食糧としてのマツタケが採れない事に対する不満ではなく、皆で楽しんだマツタケ狩りとすき焼きができない、という寂しさなのです。それでも、好きな人は年に数本のマツタケをこっそり採ってきます。その人が山へ行くのがばれると、周りの人は「おみやげ、たのむでー」と言ってひやかします。

平群町マツタケ個体群は既に絶滅したかも知れない、と不安だったのですが、今年は1本のマツタケと5本のマツタケモドキを見つけました。

木曜日は、週に1日だけ授業も実習もゼミも無い私の日です。意味不明文を長々と書きましたが、今から山に行ってきます。

## 会員からのメッセージ from 阿部代始子さん

### Message from Members

#### 手抜き功名?



会員紹介コーナーをもうけるからと、無理矢理書かされた次第です。先ほど聞いていた講演では(一番)瀬康子氏)生きがいをもつため

に、(1)仕事、(2)いくつになっても興味のあることを学ぶ、(3)のほせるほどの趣味をもて、(4)ボランティア、と言っていました。そういえばこの会の方々は熱があります。きのこは買うもの、採集なんてとは絶対言えません。平成元年に生態園が開園して、以来月に数回通って、きのこがでると、吹春先生に尋ねる弱みから幹事を引き受けてしまいました。本郷先生が来られ、お話をうかがえるのが楽しみです。

今、生態園では照葉樹林の一隅でハタケシメジが大発生しています。先生の説明では、移植時の根の外辺の腐植によるものではないかとのこと。五、六年前からはマツカサキノコモドキやスジオチバタケも毎年出てきます。ごく狭い生態園の移り変わりも興味深いものです。

約十年間二人の子育ても一段落かと思っていたのですが、年子の男の子達が生まれ、もう十年は待てないと、おむつをつけた子達を近く



夕暮れの生態園オリエンテーションハウスと開園当初(約10年前)に植林した樹木の周りに多量に発生したハタケシメジ2000年10月29日

の田や林へと連れ歩きました。千葉の博物館がまだなかったのが、埼玉へ、神奈川へと遠出もしていました。日曜というのに早く起こされ、母の道楽につき合わされてきた子供達はさぞ迷惑だったことでしょう。好きな事をするには、経済の自立をと仕事も持ったのですが、今はその仕事に追われる日々で、やめさせてもらえず、ぼやきながら過ごしています。振り返ってみると、私がいなくても家の誰かが全く困らないのがよかったです。手抜き功名ですか。

阿部さんは、シダなどを中心に植物・動物など非常に広い範囲の対象に興味を持っておられます。談話会では、現在、泉自然公園での観察会の、会場予約、準備、など石田会員といっしょに手伝って頂いています。どうもありがとうございます。談話会の事務局のある博物館では、阿部さんに1989年の開園以来、いろんな仕事をお手伝いいただいています、とのこと。 (from編集部)